

港南区のあゆみ

のどかな農村生活の中で

江戸時代、現在の港南区の中心には武蔵と相模の国境が南北に走り、両側にいくつもの村がありました。その後、明治期の町村制の施行により、永野村、日下村、大岡川村の3村が誕生。これが、現在の港南区のルーツといえます。当時、この地は農村地域であると同時に、近代国家の礎（いしずえ）の役割を担っていたのです。



横浜開港とそれに伴う様々な変化

安政6年(1859年)横浜開港。横浜港が日本の貿易の窓口として活躍するとともに、

村の生活も大きく変化しました。農産物を出荷し、現金を得るという商品経済が、この地に及び始めたのです。米麦雑穀中心の作付から市街地が求める野菜や養蚕の生産に変化し、多角化していきました。日清・日露戦争後は貿易促進や産業の振興のもとで、ジャガイモやパイスケザル（竹で編んだ浅い鉢形のざるで、天びん棒に下げ、土砂や石炭等の運搬に用いられた）などの品種改良、

商品改良も活発に行われるようになりました。(写真：明治36年ごろの上大岡。あたり一面は田んぼだけののどかな農村風景が広がっていました。)

花の栽培で賑わう港南の村

横浜港を中心に新市街地が拡大するとともに、新しい産業も誕生しました。それは多様な花の栽培です。港南の温暖な気候は、キク、ユリ、シャクヤク、スイセン、キンセンカなどの花栽培に適しており、当時、大岡、笹下、日野あたりは一面花畑だったそうです。カーネーションやバラの温室栽培も行われて出荷先は東京にまで及び、昭和8年には、上大岡に港南花市場も誕生しました。しかし、こうした花産業も戦争とともに衰退していくのです。(写真：昭和初期、当時の笹下地域は花の栽培が盛んでした。その先駆けとなった『薫花園』の花畑です。)



関東大震災、第2次世界大戦

大正12年に発生した関東大震災により、港南地域の建物の大部分が失われました。しかしその復興期には、新しい事業への試みも活発に行われました。上大岡では製陶業が始まり、大岡川流域では捺染（なっせん）業が続々と誕生。さらに観光農園としてブドウ園を開園する事業家も現れました。その後、昭和5年には湘南電気鉄道（現：京浜急行電鉄）が上大岡に開通。昭和11年には横浜刑務所が完成。第2次世界大戦下ではすべてが戦時体制に塗り替えられ、そして敗戦。しかし、戦後の疲弊の中から、新しい生活が再び始まりました。高度成長、人口急増という大変化が港南の姿を大きく

変貌させていったのです。(写真：昔の捺染布干し風景。港南区で作られたスカーフが「ヨコハマスカーフ」として横浜港から輸出されました。)

港南区の誕生

日本の高度経済成長に伴う官舎、社宅、首都圏の住宅地としての市街地化と人口増加により、昭和 44 年に南区から分区して港南区が誕生しました。当時の世帯数は 25,928 戸、人口は 95,545 人でした。

その 2 年後の昭和 46 年には既設の大岡警察署(現港南警察署)に隣接して港南区総合庁舎、港南保健所、港南消防署、港南公会堂が開設し、港南区の基盤施設が整いました。(写真：昭和 46 年開設時の港南区総合庁舎。6 億 9 千万円の工費と、20 か月の歳月をかけて完成しました。)



街並みの変化

昭和 30 年代から始まった住宅開発は、高度経済成長期に小規模開発から大規模開発へ転換していきました。昭和 38 年から 47 年にかけて横浜市住宅供給公社により野庭団地が造成され、続いて昭和 40～51 年には日本住宅公団により港南台住宅地が誕生しました。以降、大企業や組合により日限山住宅地、丸山台住宅地等が生まれました。かつての緑豊かな里山は次々と団地や住宅地へと変貌していったのです。

湘南電気鉄道の開業後、軍需産業従業員の社宅群として発展した上大岡地区は、戦後も昭和 30 年頃の鎌倉街道の拡幅、昭和 55 年のバスターミナルの設置と駅周辺の整備が続きました。平成に入ると、再開発事業によって大型商業ビルやオフィスタワーが次々にオープンし、市内有数のターミナルとして賑わっています。(写真：港南区誕生時の上大岡。昭和 44 年に開店した 7 階建ての上大岡センタービル(東光ストア)は低層の商店街が続く上大岡で目立つ存在でした。)

交通網の広がり

昭和 47 年に市営地下鉄が上大岡まで開通し、51 年には港南中央・上永谷へ、60 年には下永谷・舞岡、62 年に戸塚まで延伸しました。また、昭和 48 年には国鉄根岸線が港南台住宅地の開発に合わせて大船まで延長され、港南台駅が開設されました。これにより、上大岡、港南台、上永谷という駅を中心とした 3 つの商業・生活拠点が誕生しました。(写真：開業当時の港南台駅。乗降客数はまだ 1 日 1,300 人そこそこ。) 港南区には、「武相国境」や「かまくらみち」「かねさわみち」といった古道が通っていました。自動車の普及により「かねさわみち」は笹下釜利谷街道として、「かまくらみち」は、経路は違いますが、横浜港と南部地域を結ぶ鎌倉街道として整備されました。また、昭和 54 年以降、横浜と横須賀方面を結ぶ自動車専用道路(横浜横須賀道路)が順次開通し、平成 10 年には横浜市の郊外を結ぶ環状 2 号線が「港南ひまわりトンネル」の完成により開通、また翌平成 11 年には環状 3 号線が「原乃橋」の架橋により開通しました。



愛あふれる♥ふるさと港南に



(写真：令和 3 年 3 月落成 港南公会堂)

昭和 54 年に区の花として「ひまわり・ききょう・あじさい」を制定しました。時代が平成へと変わると、高齢化の進行により地域福祉の充実が求められ、区内 10 か所に地域ケアプラザを整備しています。

令和元年 10 月には区制 50 周年を迎え、地域、各種団体、事業者をはじめとする多くの皆さまに、様々なイベント等を企画していただきました。多くの区民の皆さまにもご参加いただき、区内におけるつながりが一層深まりました。

そして、令和 3 年 3 月には、第 4 期港南ひまわりプラン(港南区地域福祉保健計画)を策定しました。このプランは、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、みんなが協力し、地域をより良くしていくための計画です。プランの目標に向かって、それぞれの立場でできることを連携・協力して進めています。

参考：港南区役所区政推進課ホームページ 協力：港南歴史協議会

港南区誕生から現在まで

港南区誕生から現在までを10年毎の統計データで振り返ります。

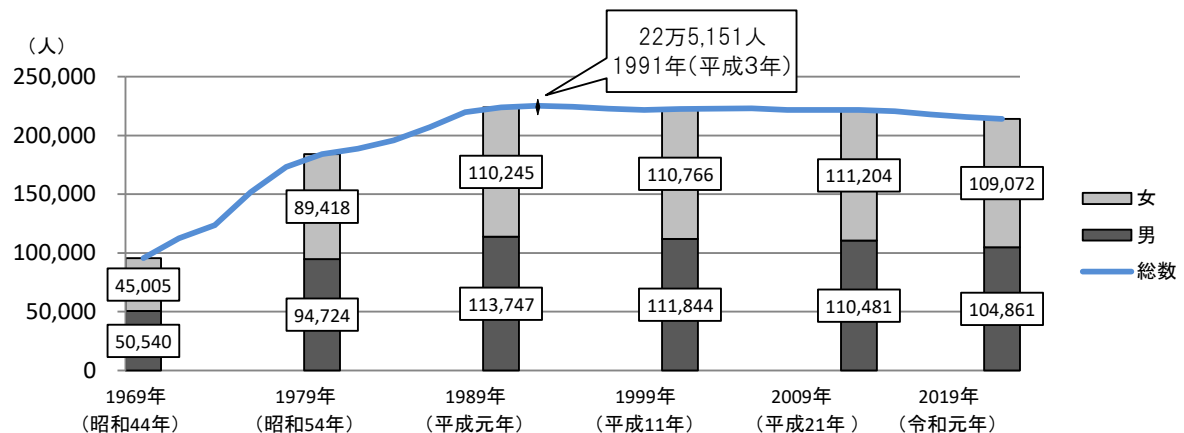
◇港南区誕生から現在まで

		昭和44年	昭和54年	平成元年	平成11年	平成21年	令和元年	【参考】 令和6年
面積(km ²)		19.66	19.79	19.87	19.86	19.86	19.86	19.90
人口(人)	男	50,540	94,724	113,747	111,844	110,481	104,861	102,977
	女	45,005	89,418	110,245	110,766	111,204	109,072	109,290
	計	95,545	184,142	223,992	222,610	221,685	213,933	212,267
世帯数		25,928	52,785	73,927	82,993	89,475	93,980	97,708
1世帯あたり人員(人)		3.69	3.49	3.03	2.68	2.48	2.28	2.17
人口密度(人/km ²)		4,860	9,305	11,273	11,209	11,162	10,772	10,667

資料：横浜市統計書（各年10月1日現在）

◇男女別人口の推移

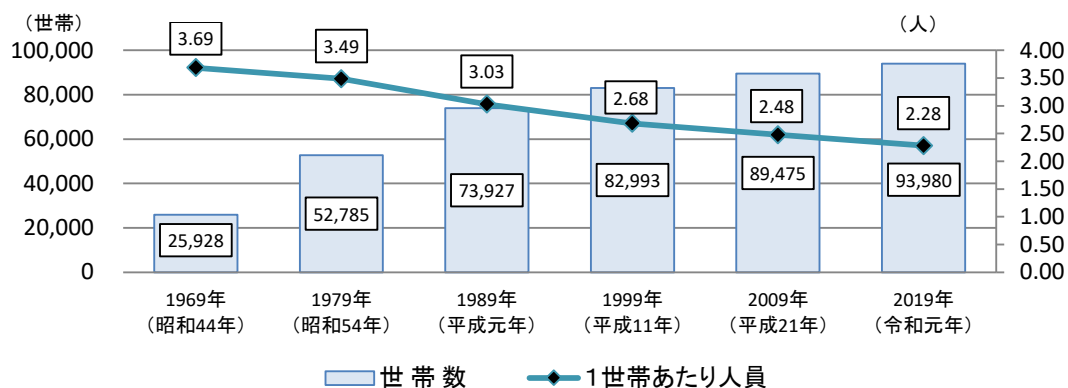
港南区発足から人口は増加し続け、1991年(平成3年)には22万5,151人に達し、人口のピークを迎えました。1992年(平成4年)以降、人口は緩やかに減少しています。



資料：横浜市統計書（各年10月1日現在）

◇世帯数と1世帯あたり人員の推移

港南区が発足した1969年以来、世帯数は増加し続けており、1世帯あたり人員は減少し続けています。



資料：横浜市統計書（各年10月1日現在）

略年表

南区から分区し、
港南区が誕生したのは1969年(昭和44年)のことです。

西暦	年 号		
1872	明治	5年	武蔵国久良岐郡の一部、関村・雑色村・松本村の3か村が合併して笹下村に、宮ヶ谷村・宮下村・金井村・吉原村の4か村が合併して日野村になる
1878		11年	東樹院隣接地に久良岐郡役所が開設
1889		22年	横浜に市制が施行される 笹下村と日野村を統合して日下村に、上大岡村・最戸村・久保村の他9か村が合併して大岡川村に、鎌倉郡永谷村・上野庭村・下野庭村の3か村が合併して永野村となる
1923	大正	12年	関東大震災で大きな被害を受ける
1927	昭和	2年	第3次市域拡張により、久良岐郡日下村・大岡川村が横浜市に編入される 横浜市に区制が施行され、鶴見区・神奈川区・中区・保土ヶ谷区・磯子区の5区が誕生、日下村・大岡川村は中区に編入され、中区上大岡町・笹下町・日野町・最戸町・大久保町と改称
1930		5年	湘南電気鉄道(現在の京浜急行電鉄)が黄金町～浦賀間に開通し、上大岡駅が開設
1933		8年	日野共葬墓地(現在の日野公園墓地)開設
1936		11年	横浜刑務所が久良岐郡根岸村から現在地(港南四丁目2番2号)に移転 第4次市域拡張により、鎌倉郡永野村は中区に編入され、中区上永谷町・下永谷町・野庭町と改称
1943		18年	中区の一部56か町が南区として分区
1945		20年	横浜大空襲(港南区は空襲を免れる)
1950		25年	南区役所港南出張所新設(所轄世帯数3,990戸、人口19,748人)
1953		28年	講和条約締結記念事業として神奈川県戦没者慰霊堂建立
1960		35年	市立南高等学校が中区山下町から現在地に移転
1964		39年	港南出張所が港南支所となる
1965		40年	県立横浜日野高等学校開校
1969		44年	南保健所港南支所開設 南区から分区し、「港南区」が誕生(所轄世帯数25,928戸、人口95,545人)
1970		45年	区の人口が10万人突破
1971		46年	港南区総合庁舎落成、港南保健所・港南消防署・港南公会堂(11月)開設
1972		47年	下永谷市民の森開設、港南区青少年図書館開館 水道局港南営業所開設 市営地下鉄の一部(上大岡駅～伊勢佐木長者町駅)が営業開始
1973		48年	国鉄(現在のJR東日本)根岸線全線開通、港南台駅開設 県立港南台高等学校開校
1974		49年	環境事業局港南事務所開設 環境事業局港南工場・余熱利用施設完成 港南土木事務所開設 港南区民会議発足 区制5周年の記念式典挙行
1975		50年	区の人口が15万人突破 県立野庭高等学校開校
1976		51年	野庭消防出張所開所 初の港南区民まつり実施 市営地下鉄の延伸(上大岡駅～上永谷駅、伊勢佐木長者町駅～横浜駅)営業開始
1977		52年	港南台消防出張所開所
1978		53年	港南区休日急患診療所開設
1979		54年	下野庭スポーツ会館開設 区制10周年の記念式典挙行 区の花として、ひまわり・ききょう・あじさいを制定 横浜横須賀道路一部開通(日野インター～朝比奈インター)
1980		55年	港南地区センター開館 上大岡駅前バスターミナル開設 港南スポーツセンター開館
1981		56年	港南区コミュニティ・カレッジ開講 上永谷消防出張所開所 港南区工業会発足
1982		57年	上永谷バスターミナル開設
1983		58年	横浜市港南区ひまわり親善国際交流協会発足 済生会横浜市南部病院開院

西暦	年 号		
1984	昭和	59年	芹が谷消防出張所開所 ひまわり国際交流スペイン調査団派遣 区の人口が20万人突破 港南福祉ホーム完成 区制15周年の記念式典挙行
1985		60年	市営地下鉄の延伸(上永谷駅～舞岡駅、横浜駅～新横浜駅)営業開始、下永谷駅開設 港南台駅自転車駐車場開設(港南区放置禁止区域:上大岡駅、上永谷駅、港南台駅周辺)
1986		61年	港南ひまわり情報局開局 県立永谷高等学校開校
1987		62年	港南図書館開館 永谷地区センター開館 市営地下鉄の延伸(舞岡駅～戸塚駅) 深夜バス運行開始(上大岡～野庭車庫間、上大岡～芹が谷～平戸間)
1988		63年	桜道プロムナード完成 市政100周年と区制20周年を祝い、ひまわり合衆国宣言 宮城県三本木町(現大崎市)とのひまわり交流開始
1989	平成	元年	区制20周年記念ひまわり合衆国フェスティバル開催 よこはま21世紀プラン港南区計画発表
1990		2年	野庭東小学校コミュニティスクール(現 野庭すずかけコミュニティハウス)開設 バス接近表示機が区内に初めて登場 港南台コミュニティ道路完成 日野中央公園完成
1991		3年	上永谷中学校にコミュニティスクール(現 上永谷コミュニティハウス)開設 港南リサイクルプラザ開設 港南台などでごみの分別収集モデル事業開始
1992		4年	「地球にやさしいフェスティバルin港南」開催 港南台地区センター開館、下永谷駅自転車駐車場開設 馬洗川せせらぎ緑道オープン、港南台駅プロムナードに彫刻設置 港南中央駅自転車駐車場開設 日限山小学校にコミュニティスクール(現 日限山コミュニティハウス)開設
1993		5年	市営地下鉄の延伸(新横浜駅～あざみ野駅) 港南台北公園にこどもログハウス「どんぐりハウス」開設 新総合計画長期ビジョン「港南区の将来像」発表
1994		6年	港南中央駅に、地上～改札口を結ぶエスカレーターを設置(市営地下鉄初) 上永谷ふれあいの水辺オープン 区制25周年記念式典挙行、区のシンボルマーク・鳥(シジウカラ)・木(クロガネモチ)を制定 港南台214ビルに港南台行政サービスコーナー・港南台在宅支援センター(現 港南台地域ケアプラザ)開設 生涯学習相談コーナー(現 区民活動支援センター)開設 「ゆめはま2010プラン港南区計画」発表
1995		7年	港南台郵便局開局 港南区災害対策連絡協議会設立 港南メヂカルセンター訪問看護ステーション(現 港南区医師会訪問看護ステーション)開設 港南中央ガーデンプラザ構想検討委員会発足
1996		8年	港南資源回収センター開設 上大岡駅行政サービスコーナー開設 港南区地域防災拠点運営委員会連絡協議会設立 上大岡駅前再開発事業商業施設オープン 港南中央ガーデンプラザ連絡協議会発足
1997		9年	上大岡駅前再開発事業竣工 済生会南部病院訪問看護ステーション開設 上大岡駅前再開発ビル業務棟にシルバー社会活動センター開設 上大岡駅前再開発ビル業務棟に港南国際交流ラウンジ開設 東永谷地区センター・東永谷地域ケアプラザ開設 上大岡駅前再開発ビル中央棟に港南区民文化センターひまわりの郷開設 上大岡駅前再開発ビル業務棟に福祉保健研修交流センター(ウィリング横浜)開設 ふれあいショップ(あおぞら)開設 こども家庭支援センター開設 せいれい訪問看護ステーション上大岡開設
1998	平成	10年	上大岡駅前再開発ビル業務棟に横浜市消費生活総合センター開設 ボランティアハウス港南開設 環状2号線暫定開通

西暦	年 号		
1998	平成	10年	港南台コミュニティハウス開設 上大岡駅前再開発ビル業務棟に横浜市立大学アーバンカレッジ、道路局南部建設課移転 下永谷地域ケアプラザ開設 港南台駅にエスカレーター(2基)設置
1999		11年	上大岡駅前再開発ビル業務棟に南部建築事務所開設(港南区役所建築課移管) 市営地下鉄の延伸(戸塚駅～湘南台駅) 区制30周年の記念式典挙行
2000		12年	桜道コミュニティハウス開設 港南中央ガーデンプラザ計画の開始
2002		14年	港南区福祉保健センター開設 野庭地区センター・野庭地域ケアプラザ・日下地域ケアプラザ開設 港南中央地域ケアセンター(現 港南中央地域ケアプラザ)開設 精神障害者生活支援センター開設 港南つくしんぼ保育園開園 ひまわり提案箱設置 港南セイフティネット発足 港南中央地域活動ホームそよかぜの家、港南区福祉保健活動拠点開設
2003		15年	精神障害者地域作業所パステルオープン 県立横浜日野高等学校と県立野庭高等学校が統合し、県立横浜南陵高等学校開校 港南台ひの養護学校(現 港南台ひの特別支援学校)移転開校 上大岡B地区再開発ビル完成
2004		16年	横浜市コールセンター港南区でモデル実施 政令指定都市初、港南区役所土曜日開庁試行 ごみの分別収集拡大スタート
2005		17年	横浜市都市計画マスタープラン港南区プランを策定 特別養護老人ホームサンパレー開設
2006		18年	港南区地域福祉保健計画を策定
2007		19年	災害時要援護者対策モデル事業実施
2008		20年	港南区民活動支援センター開設 港南区地域子育て支援拠点はっちオープン 子育ての居場所ひまわりひろば あっぶつぶ、わっ！ふるオープン
2009		21年	上大岡コミュニティハウス・日野南地域ケアプラザ開設 県立港南台高等学校が県立栄高等学校に統合 区制40周年『自然にエコ・未来にエコ・地域にエコ』をテーマに区民全員で記念事業実施
2010		22年	上大岡駅前再開発ビルmiokaオープン 日野南コミュニティハウス開設
2011		23年	東日本大震災の発生
2012		24年	芹が谷地域ケアプラザ開設 市内初の公立中高一貫校として、市立南高等学校附属中学校が開校
2013		25年	学び舎ひまわり(地域づくり大学校)開校
2014		26年	県立横浜明朋高等学校開校 県立精神医療センター開院
2016		28年	港南台地区センターで図書取次サービス開始 日限山地域ケアプラザ開設 横浜医療福祉センター港南開院
2017		29年	港南区総合庁舎落成 県立ひばりが丘学園閉園 県立津久井やまゆり園仮移転
2018		30年	日野公園墓地内に日野こもれび納骨堂開所
2019	令和	元年	区制50周年「愛あふれる♥ふるさと港南に」をテーマに記念事業実施 港南消防団発足50周年 横浜市都市計画マスタープラン港南区プランを改定
2020		2年	野庭中学校が丸山台中学校に統合 新型コロナウイルス感染症の世界的大流行
2021		3年	港南公会堂・港南土木事務所落成、港南区民活動支援センター移転 港南消防署開設50周年 県立芹が谷やまゆり園開所
2022		4年	港南区役所がデジタル区役所のモデル区に選定 港南図書館開館35周年を迎え、マスコットキャラクターの名前が「こうなんうさぼん」に決定 資源循環局港南事務所移転
2023		5年	学び舎ひまわり開校10周年を迎え、記念誌「港南区協働による地域づくり10年の歩み」発行 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に移行 上大岡駅にエレベータ(2基)設置
2024		6年	上永谷駅前地域ケアプラザ・上永谷駅前コミュニティハウス開設 リュウゼツランの開花(環状2号線「上永谷駅入口」交差点の中央分離帯)